

スノードライバランスの優良事例

雪印種苗㈱ 千葉研究農場

飼料研究室 岡田卓士

1 はじめに

乾乳牛専用配合飼料、『スノードライバランス』は平成9年の販売開始より4年が経過しようとしています。当誌においても数回にわたり紹介させていただきました（平成9年8月号、平成10年1月号・9月号、平成11年4月号参照）が、多くのお客様にご愛用いただき、「産後の疾病が減少した。」「食い止まりがなくなり分娩後の立ちあがりがいい。」「分娩後の粗飼料の食い込みがいい。乳量のピークも持続し繁殖も良くなった。」など、好評をいただいております。

今回、あらためて乾乳期管理の重要性を説明するとともに、長期にわたりスノードライバランスをご愛用いただいているお客様を紹介したいと思います。

2 なぜスノードライバランスか？

乾乳期は胎児が急速に発育し、次の分娩を間近に控えた期間であるとともに、乳腺細胞やルーメンを休息させ、また再生して機能回復させる期間でもあります。とくにクローズアップ期と呼ばれる分娩前の3週間は胎児の成長に加え、乳腺組織の発達、牛乳の合成開始などから、たんぱく質を始めとする各種栄養素に対する要求量が増加します。しかし、胎児による消化管の圧迫やミネラル、ホルモン代謝の崩れなどから採食量は低下するのでこの時期、給与する飼料の栄養レベルを上げて対応する必要があります。さらに高産次や高泌乳の乳牛では低カルシウム血症の予防のためにDCAB（飼料中の陽イオン・陰イオンのバランス… Dietary Cation Anion Balance）の調整が必要とされ

るなど、泌乳期や乾乳前期とは異なる飼養管理が要求される時期になります。

スノードライバランスはクローズアップ期に必要なとされる栄養バランスを考え、また、陰イオン塩の配合でDCAB調整を可能とし、牛が持つ能力を分娩直後から最大限発揮できるように設計した、乾乳後期専用の配合飼料です。スノードライバランスの給与により産じょく期を乗り切れる体力をつけ、また、分娩後の疾病を抑え、産じょくダメージから早期に抜け出すことができます。

3 現地ルポ

● 丸井 馨 牧場 ●

（愛知県渥美郡渥美町）

1年を通して温暖な気候と、新鮮な空気に恵まれた渥美半島、この地域は半世紀以上前から酪農が盛んで、現在1日に生産される生乳は愛知県内生産量の約40%にあたる260tに達しています。このような渥美半島の先端に位置する渥美町で酪農を営む丸井 馨さんは経産牛50頭、育成牛40頭を飼養し、年間約400tの牛乳を出荷しています。スノードライバランスは販売当初よりご使用いただき、3年ほどが経過しようとしています。導入のきっかけは分娩後疾病、とくに第四胃変位の低減にありました。スノードライバランスの導入前は年間40頭ほど分娩する中で、5～6頭/年のペースで第四胃変位が発生していました。このころは搾乳牛用の飼料をベースとした給与でしたが、乾乳用の製品が発売されたということで第四胃変位が少しでも減ればと思い、ご使用に踏み切られま



写真1 玉城牧場フリーストール牛舎
した。

スノードライバランスの給与は分娩予定の20日前から1日2kg程度を給与し、ほかにトウモロコシサイレージを5kg、スーダン乾草を飽食させています。食いつきの悪い牛には搾乳牛用の飼料を少し混ぜることにより、しっかりとスノードライバランスを食べさせることを心がけています。また、以前はつないだまま分娩させていましたが、乾乳牛の管理全般についてもみなおされ、分娩予定の1か月前から分娩房へ移動させるようにしています。

「1年を通して温暖な気候」ということは、乳牛にとって暑熱のストレスは非常に大きくなります。暑熱対策には気を使うものの、夏場に分娩した牛でも採食量が極端に落ちるといったことは少ないようです。丸井さんは、「今までも起立不能などもたまには発生していたが、とくに第四胃変位を何とか減らしたかった。スノードライバランスを使い始めてからも、1～2頭は第四胃変位が見られたが、事故の発生率は減っているのは確かであり、これからも愛用していきたい。」と大変ありがたい言葉をいただきました。（取材協力:名古屋営業所 松岡憲治）

● 玉 城 牧 場 ●

（沖縄県島尻郡大里村字大城）



写真2 乾乳牛群

スノードライバランスを2年間にわたりご使用いただいている玉城牧場（写真1）は、兄の弘社長、弟の茂専務のご兄弟による共同経営で130頭の乳牛を飼養しています。規模拡大を目指し、平成11年に既存の70頭のつなぎ牛舎に隣接した土地に、フリーストール牛舎を建設、現在に至っています。

スノードライバランスはフリーストールへの移設とほぼ時期を同じくして使い始めていただきました。乾乳牛は前期（ファーオフ期）と後期（クローズアップ期：写真2）の2群に分けられ、クローズアップ期のメニューは1頭あたりスノードライバランスが1.5～2.0kg、ビートパルプ3kg弱、ほかにオーツ乾草10kg程度を給与しています。「嗜好性の面で食わない牛もいると聞かすが、うちは群飼いで競うように食っているから、ほとんど食い残しはない。」と話されています。以前は頻繁に見られていた産後疾病についても、「スノードライバランスを給与するようになってからは、分娩後の事故は1頭もない。」と頼もしい言葉をいただきました。

また、玉城牧場では沖縄県内唯一の私設ミルクプラント「(有)玉城牧場牛乳」(沖縄県島尻郡大里村字大城2060番地)により牛乳の製造も行っています。牛乳工場は平成2年より稼動、「玉城グループ」と称される近隣の酪農家5戸からの牛乳も受け入れ、牛乳と乳飲料(コーヒー牛乳)を製造、出荷



写真3 (有)玉城牧場牛乳製品

しています(写真3)。玉城牧場牛乳では、玉城牧場を含むグループ6戸ですべて同一の給与メニューによる管理が行われています。飼料はグループと当社の話し合いの基に設計された発酵基礎飼料『結・TMR』(ビール粕とスーダン乾草、ビートパルプ、濃厚飼料を混合、発酵させたウェットタイプ飼料)を中心に、オーツ乾草と乳配を組み合わせた体系となっています。ウェット飼料はご利用いただいてから1年が経過しようとしていますが、スノードライバランスとの相乗効果が、玉城グループを担当している獣医師からも「この1年間、玉城グループの牛では食滞が1頭もいなかった。」と聞いております。

玉城牧場牛乳の1日の生乳処理量は約7,000kg、さらに平成8年からはブランド牛乳の開発にも着手、『環境浄化材EM』を乳牛の飼料や飲用水、牛舎内外の清掃水にまで添加し、そこから得られた

牛乳による『EM酪農牛乳』の製造も開始しました。製品は毎日の個配はもとより、スーパーやコンビニエンスストアなどで販売され、県内の多くの方々にご愛飲いただいています。また、那覇空港や県内のホテル、有名観光地などでも販売され、沖縄を訪れる県外のお客様の目に触れる機会も多くなっています。今年の夏からは、この牛乳を使用してのアイスクリームの販売も開始する予定です。さらにインターネットなどを利用しての県内外へのクール便による宅配も行われており、多くの方々に好評を得ています。

製品の購入などにつきましては「玉城牧場牛乳」、電話098-945-5183にお問い合わせください。

(取材協力：南九州営業所沖縄担当 宮原重人)

4 おわりに

スノードライバランスは、クローズアップ期に必要な栄養素としてバイパスたんぱく源を強化し、また、DCAB調整のための陰イオン剤を配合しています。そのため、今回紹介した現地ルポにも触れられたように、嗜好性についての改善が多くのお客様より要望されております。当社では配合原料の吟味や陰イオン剤の添加量の見なおしを行い、乾乳牛用の配合飼料としての性能を維持しながらも、さらに嗜好性を改善させた製品について試験を行い、すでに販売の準備段階に入っております。

給与の効果は認めていただきながらも、嗜好性の面で乾乳期用飼料の利用を見送られていたお客様につきましては、これを期に今一度スノードライバランスについてご検討いただき、牛群成績の向上に貢献できたらと願っております。

雪印 横型連続発酵槽

堆肥発酵機

沃野

Y O K U Y A

大規模経営のふん尿処理には、
機械力による省力化が欠かせません。

悪臭が周囲に漏れない密閉型

住宅混在地でも、臭気公害を気にせず堆肥処理ができます。

ランニングコストが低い

200頭処理の大型機でも、月々の電気料金は約5万円と、極めて低コストです。

商品力のある堆肥作り

悪臭や汚物感のない、十分に腐熟した堆肥が製造できます。

国や県、市町村の各種助成事業に、多くの実績があります。
お気軽にお問い合わせ下さい。